

令和5年度 自己評価結果及び学校関係者評価

学校法人池田学園 東京服飾専門学校

学校関係者評価委員会

2024/4/1実施

1.教育理念

項目	具体的方策と取組	評価
A 学校の理念に基づいた教育が行われているか	当校教育理念に基づき、学習カリキュラムの設計においては、学生一人ひとりの学力や興味、関心に応じた多様な科目や選択肢を提供しています。基礎学力を強化するための少人数制授業や、専門的な知識を深めるための選択科目を設け、個々の能力を伸ばす教育を実践しています。 また、キャリア教育にも力を入れており、学生自身が将来について具体的に考え、目標を持って学習に取り組むためのサポートを行っています。キャリアカウンセリングや職業体験プログラムを通じて、自己理解を深め、自分に合った進路を選択できるよう支援しています。	4
B 学校における職業教育の特色は何か	カリキュラムの中に実践的な技術やスキルを習得するための授業を多く組み込んでいます。 多岐にわたるデジタルツールを駆使しを実習授業を行い、現場で即戦力として活躍できるようなスキルを養成しています。 これにより、実際の仕事に直結する技術を学ぶことができます。 次に、企業との連携を強化し、インターンシッププログラムを充実させています。地域企業や業界リーダーとのパートナーシップを活用し、現場での実務経験を積む機会を提供しています。このプログラムは、学生が職場の雰囲気や仕事を直接体験し、仕事に対する理解を深めるとともに、職業意識を高めることを目的としています。また、企業からのフィードバックを受けることで、自身の強みや改善点を明確にすることができます。	4
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	当学園は、社会経済の変化やニーズを常に把握し、それに基づいた教育の提供を重視しています。 まず、急速に進展するデジタル技術に対応するための教育改革を進めています。IoT(モノのインターネット)などの先端技術をカリキュラムに取り入れ、最新の技術を習得できるようにしています。 これにより、将来のデジタル社会で即戦力となる人材を育成します。	4
D 学校の理念・目的・育成・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学校の理念・目的・育成・将来構想は、定期的な説明会やパンフレット、ウェブサイトを通じて学生や保護者に周知されています。さらに、各学期の始めにはオリエンテーションを実施し、理解を深める機会を設けています。 これにより、全員が学校のビジョンを共有し、一体感を持って学ぶ環境が整えられています。	4
E 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	各学科の教育目標と育成人材像は、常に業界の最新ニーズに基づいて設定されています。 これにより、現場で即戦力として活躍できるような知識と技術を習得します。 具体的なカリキュラムや実習プログラムを通じて、業界に対応した人材を育成しています。	5
学校関係者コメント及び評価		
毎年目標を持ち、自己採点することが望ましい 実務経験者が指導にあたり、より実務に基づいた職業教育をおこなっていることは高く評価できる 学生本人やご家族に、本学園の概要について、様々な手段を使って周知していることは評価する 業界のニーズと併せて消費者のニーズを的確にとられることが大事である		4.6

2.学校運営

項目	具体的方策と取組	評価
A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	当校は、教育の目的と理念に基づいた明確な運営方針を策定しています。 これにより、教育活動の全てが一貫して目標達成に向けて運営されています。定期的な評価と改善を行い、常に最適な教育環境を提供する努力を続けています。これらの方針は全教職員に共有され、実践に反映されています。	5
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	当校では、運営方針に基づいた具体的な事業計画を策定しています。 この計画は教育目標を達成するための詳細な施策やスケジュールを含み、各部署で実行されています。 定期的な進捗確認と評価を行い、必要に応じて計画の見直しや改善を実施しています。全教職員が一体となり、計画の実現に向けて協力しています。	3.5
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	当校の運営組織と意思決定機能は、明確な規則と手続きに基づいて構築されています。 これにより、各部署の役割と責任が明確化され、効果的に機能しています。定期的な会議や評価を通じて、意思決定プロセスの透明性と迅速性を確保しています。全教職員がこれらの規則を理解し、遵守しています。	4
D 人事、給与に関する規定等は整備されているか	当校では給与規定に基づき、年一度の昇給及び賞与の体制等整備及び周知されています。 また、全社員が閲覧できるようにし、新入社員にも保管場所の周知及び説明をしています。	4
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	各部署、各科ごとの組織図によって整備されている。	3
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか	路上喫煙などに対して、見回りをしたり強化をしている 地域とコミュニケーションをとっている	4

G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	毎年、その年のシラバスをHPにて公開している。 授業内容の紹介、授業風景等分かりやすく動画撮影し、SNSなどに定期的に公開している。	5
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	出席管理システムの導入により、出欠及び学籍管理が大幅に業務軽減となった。 学生アンケートもデジタルツールを使い、デジタル化したことで集計時間の短縮、業務の軽減にもつながった。	5
学校関係者コメント及び評価		
事業計画の達成度も公表すると尚よい 毎年、HPを通して様々な情報を発信していることは評価できる 校内のガバナンスが機能していると評価できる コンプライアンス等については、できれば第三者委員会等において評価されるべき 情報管理責任体制を構築し、業務の効率化を図っていることは評価できる		4.6

3.教育活動

項目	具体的方策と取組	評価
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	教育理念に基づいた教育課程の編成・実施方針を明確に策定しており、学生の多様な学習ニーズと社会の要請に応じたカリキュラムを提供している。 各学科やコースの内容は、理念に沿った目標達成を目指し、体系的に構築されている。 定期的な見直しと改善を行い、常に最新の教育内容を反映、教職員全体でこれらの方針を共有し、一貫した教育実践を行っています。	5
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教育理念と育成人材像、業界のニーズを踏まえた上で、学科ごとの修業年限に対応した教育到達レベルと学習時間を明確に設定しています。各学科のカリキュラムは、所定の期間内に必要な知識と技術を習得できるように設計されています。 学習時間の確保に関しても、講義、実習、課題等を通じて十分な時間を提供しています。定期的な評価と見直しを行い、教育の質を維持・向上させています。これにより、学生は効果的に学び、業界で即戦力として活躍できるようになります。	5
C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科のカリキュラムは、体系的かつ段階的に編成されています。 基本的な知識とスキルの習得から専門的な応用力の向上まで、一貫した教育プロセスを提供します。 各学期ごとに学習内容が連携し、効果的な学習が進められるよう設計されています。定期的なカリキュラムの評価と見直しを行い、最新の教育ニーズに対応しています。	4
D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	キャリア教育と実践的な職業教育を重視し、それに基づいたカリキュラムや教育方法の工夫・開発が積極的に実施されています。 産業界との連携を強化し、現場での実践経験を積む機会を提供しています。また、キャリアカウンセリングやインターンシッププログラムなどを通じて、学生が将来のキャリアに向けた準備を行うサポートを行っています。	5
E 関連分野の企業・関係施設棟や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	関連分野の企業や関係施設と綿密な連携を取りながら、カリキュラムの作成・見直しなどを行っています。 産業界の最新動向やニーズを把握し、それに即した教育内容を提供するために、定期的な意見交換や協力関係を築いています。これにより、学生が実践的なスキルを身につけ、現場で活躍できる準備が整います。	4.5
F 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられています。 産学連携によるインターンシップや実習プログラムがカリキュラムの一部として組み込まれており、実際の業務や技術を学ぶ機会を提供しています。これにより、学校と産業界との密接な連携が図られ、学生のキャリア形成に貢献しています。	5
G 授業評価の実施・評価体制はあるか	学期ごとに学生へ科目ごとの授業アンケートの実施をしている。 集計後は授業担当者へ結果をフィードバックし、次学期への改善につなげてもらっている。	5
H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	産学連携実習の授業内で、企業から評価を受けている	5
I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	学則をHPにて公開しており、評価基準等明確にしている。	5
J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	検定対策を授業内に組み込み、指導を行なっている。 また、試験前は希望者を集めて放課後に対策を行なっている。	5
K 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	実務経験を持った教員を確保、及び卒業生から優秀な人材をアシスタントから確保することで人材育成に努めている。	5
L 関連分野における業界等との連携において、すぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	業界OBの職員及び、現役の業界関係者を非常勤としておよそ半数確保している。	5

M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	教員が関連分野における先端的な知識・技能を修得するための研修を定期的実施しています。さらに、教員の指導力を向上させるための専門的なワークショップや講座が提供され、教育の質を高める取り組みが行われています。これにより、教員は最新の教育技術や方法論を学び、学生に対してより効果的な指導ができるよう努めています。	5
N 職員の能力開発のための研修等が行われているか	職員の能力開発を目的とした研修を定期的実施しています。主に東京都専修学校各種学校協会実施の教員教職課程研修会に毎年参加し、受講者はレポート作成・校内共有。上半期・終了後には専修学校を取り巻くあらゆる議題の中で重要だと位置付ける内容をプレゼンテーション実施しています。これにより、職員の専門性が高まり、より質の高い教育・サポートが提供されています。	5
学校関係者コメント及び評価		
毎年、適格に実施していることは評価できる カリキュラムに沿った指導を行なっていることは評価できる 関係各界から講師を招いて教鞭を行なっていることは評価できる 学生及び外部の意見を耳を傾けることは重要であり、評価できる ある基準に従って評価することは重要あり、評価できる 資格取得者が少ないように思われるので、もっと積極的に推進すべき 個々の能力は分からないが、実務経験者で占めていることは評価できる セミナー等に積極的に参加していることは評価できる		4.9

4.学修成果

項目	具体的方策と取組	評価
A 就職率の向上が図られているか	担任と就職担当が連携し、学生一人一人に対し、きめ細かな指導・面談を通じて就職率の向上を図っている。進捗状況は教員間で情報共有し、指導に漏れのないよう配慮している。	5
B 資格取得率の向上が図られているか	検定対策を授業内に組み込み、合格に向けて指導を行なっている。また、今年度より検定料を在学中1回を学校側で負担することとし、学生の負担を減らして資格取得を目指してもらっている。	5
C 退学率の低減が図られているか	学期ごとに担任と個人面談を行い、学校生活や私生活の状況を聞き取りしている。転科コース変更制度や再入学制度によるフォローアップを図っている。	5
D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	元担任及び、就職担当を通じて把握している。	5
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	活躍しているOBOGを体験入学や授業にゲストとして呼び、自身の体験談等を在校生に伝えてもらっている。	5
学校関係者コメント及び評価		
全体的に評価できる		4.6

5.学生支援

項目	具体的方策と取組	評価
A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	担任による個別面談と就職担当による個別指導を効果的に連携させ、校内における質問、指導だけでなく、時間外、休日もメールによる対応を欠かさず行い、支援の隙間がないように対応している。	5
B 学生相談に関する体制は整備されているか	スクールカウンセラーの設置、担任および就職担当を設けて、相談しやすい環境をつくっている。	5
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	iPad等備品の貸出や分納制度、学生寮の紹介を行なっている。	5
D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	学校医はいないが、保健室及びスクールカウンセラーの設置をしている	3
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか	サークル活動(ダンス・軽音)に対する支援 放課後・長期休暇中の教室利用	5

F 学生の生活環境への支援は行われているか	学生寮の紹介や、必要教材の貸与などは行っている	3
G 保護者と適切に連携しているか	担任から保護者へ適宜連絡、保護者と教職員をつなぐ出席管理サービスの導入により、適切に連携している。	5
H 卒業生への支援体制はあるか	HPにて在校生、卒業生のみが閲覧できる就職専用サイトの運営、及び随時就活相談を受け入れている。	4
I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	夜間など、社会人向けの聴講制度は設けていない。	2
J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	中学高校での職業体験実習への協力を積極的に行っている。	5
学校関係者コメント及び評価		
全体的に評価できる。 今後も積極的に実施すべき。		4.8

6.教育環境

項目	具体的方策と取組	評価
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	マシン、アイロンなどの教育教材はもとより、DX化の取組によって、各教室でデジタル教材の活用ができるようになった。 また、長期休暇を利用して、各教室のリフォーム工事を行っている。	4
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学内外の実習施設、多岐にわたるインターンシップ、海外研修(2023年度パリ/フランス)などの充実した教育体制を整備しています。 これにより、学生は実践的な経験を積み、グローバルな視野を広げる機会を得ることができます。 さらに、専任のスタッフがサポートし、学生一人ひとりが効果的に学べる環境を提供しています。	5
C 防災に対する体制は整備されているか	学園独自の災害時マニュアルを作成しており、全職員へ共有している。 また、防災備蓄品の管理、及び年一回の職員、学生の防災訓練を実施している。	5
学校関係者コメント及び評価		
防災管理体制に基づいて、整備していることは評価できる。		5

7.学生の受け入れ・募集

項目	具体的方策と取組	評価
A 学生募集は、適正に行われているか	ルールに則って適正に行なっている。 AOエントリー:6/1～8/30 AO出願:9/1～9/30 推薦出願:10/1～10/31 一般出願:11/1～3/31	5
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	パンフレットでのご案内と毎月のオープンカレッジにて各科ごとにガイダンスを行なって伝えている。	5
C 学納金は妥当なものとなっているか	近年の物価上昇を受け、学費の値上げをしたいところだが、学生の進路選択の一助となるよう値上げを行わず、10年以上据え置きしている。	5
学校関係者コメント及び評価		
問題なく評価できる。		5

8.財務

項目	具体的方策と取組	評価
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	少子化による多少の学生数の減少はあるが、経費削減等で補填するよう努めている。	3
B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	前年度を元に、顧問税理士監修のもと、予算管理及び収支計画を行っている。	4
C 財務について会計監査が適正に行われているか	顧問税理士監修のもと、適正に行われている。	5
D 財務情報公開の体制整備はできているか	毎年、決算終了後の6月末頃までにはホームページに公開し、常に過去3年分の財務情報の公開を行っている。	5
学校関係者コメント及び評価		
毎年、HPに公開されており、適正に行われていると評価できる。		5

9.法令等の遵守

項目	具体的方策と取組	評価
A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	毎年学則の見直しを行い、基準を守っている。	5
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	専用の学籍システムを利用し、学外への持ち出しができないよう一元管理を徹底している。	5
C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	毎年、年度末に自己評価を実施。各科ごとに問題点及び改善点の洗い出しをし、翌年の準備につなげている。	5
D 自己評価結果を公開しているか	HPにて公開している。	5
学校関係者コメント及び評価		
全体的に評価できる。		5

10.社会貢献・地域貢献

項目	具体的方策と取組	評価
A 学校の教室資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	近隣の小石川中等教育学校の職業体験の受け入れ(中学2年生)を毎年実施しており、貴重な体験ができたという毎年高評価をいただいている。	3
B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	警察署と連携した地域パトロール	5
C 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	地方、近隣の中学高校からの依頼で、職業体験やワークショップを積極的に引き受けている。	4
学校関係者コメント及び評価		
今後も積極的に活動すべき。		4.7

11.国際交流(必要に応じて)

項目	具体的方策と取組	評価
A 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	留学生については、受け入れ可能な条件を設定している。 1.出身国で、日本の高等学校以上にあたる教育課程を修了している者。 2.日本語能力検定試験2級(N2)以上の合格者。または日本留学試験日本語科目200点以上、BJTビジネス日本語能力テスト400点以上を取得した者、または同等の日本語能力があると認めた者。	4
B 留学生の受入れ・派遣、在籍管理棟において適切な手続き等がとられているか	出願後に本校独自の日本語試験と面談も実施しており、勉学意欲、経費支弁能力等総合的に判断し、適切な受け入れを行なっている。 2023年度は適正校として選定された。	5
C 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	入学後、留学生を集めて顔合わせと留学生担当から指導を行なっている。 また担任による個別面談も適宜行っている。	4
学校関係者コメント及び評価		
問題なく評価できる。		5